

事務事業	11021	障害児保育指導事業	担当課	子育て支援課	担当係	保育係	
計後 画期 体計 系画	施策	05	子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予 算 科 目	会 計 款 項 目	1 3 4 1	一般会計 民生費 児童福祉施設費 児童福祉施設総務費
	取り組み方針	160	子どもの発達に応じた支援を充実させる				
	法令根拠条例等			個別計画			
	実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		H14 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～ 年度

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 平成26年度より認可保育園の他に私立幼稚園、届出保育施設の障害児保育を子育て支援課にて実施することとなった。多様化する障害児保育に対応するため、専門的な知識を有する者の園巡回を実施している。保育士への助言や指導を行い、障害児のより良い保育環境づくりを目指している。	<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 障害児保育指導員と契約、スケジュール調整、報告書のまとめ、障害児保育指導委員会の開催。	障害児保育指導委託料 1,453 千円
	講師謝礼金 40 千円
	千円
	千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) 志免町内の認可保育園、私立幼稚園、届出保育施設の巡回指導、障害児保育指導委員会	事務事業の目的
② 対象(誰、何を対象にしているのか) 障害児等保育担当保育士	
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 障害児に対する適切な保育を学び身につけてもらうことにより、障害児保育に対する職員の不安解消、障害児保育へのスキルアップを図る。	

④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		指標数値		
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 巡回指導回数	回	76	76	117 (見込)
イ 指導委員会回数	回	1	1	1 (見込)
ウ				(見込)
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)				
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 障害児担当保育士数(町立)	人	10	4	5 (見込)
イ 障害児担当保育士数(私立)	人	10	14	12 (見込)
ウ				(見込)
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)				
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 町内障害児保育研修会開催回数	回	目標	1	1
		実績	1	1
イ 町内障害児保育研修会参加者数	人	目標	51	40
		実績	45	31
ウ		目標		
		実績		
エ		目標		
		実績		
オ		目標		
		実績		

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)
	経費	国・県支出金、地方債等	494	516	769	657	657	657
		受益者負担等						
		一般財源	1,016	1,084	724	1,818	1,818	1,818
		合計(A)	1,510	1,600	1,493	2,475	2,475	2,475
		(内臨時・嘱託職員人件費)						
		正職員人件費[按分](B)	891	1,036	946	697		
	トータルコスト(A)+(B)	2,401	2,636	2,439	3,172	2,475	2,475	

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成14年度開始。障害児を担当する保育士にとって、担当する障害児個々への対応等は外部で行われる障害児研修会だけでは学ぶことができない。このため障害児指導員が保育園を巡回し、専門的な見地から保育士に対して助言・指導することになった。	障害の疑いのある児童は増加傾向にあり、早い時期からの対応が求められている。	子どもたち個々の状態に応じた的確なアドバイスを望んでいる。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続		<input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→) ② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	障害のある児童や配慮を必要とする児童に関わる職員への指導・助言は、当該児ならびにそれを取り巻く児童の教育環境を整備することにつながっている。 次世代を担う子ども達を町全体で協力して育てていく必要があるため。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある (理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない (理由→)	町内に企業主導型保育施設が11園開園し、志免町の多くの子どもたちが通園していることから、企業主導型保育施設についても巡回指導を行うことは、さらに保育の向上を行うことができる。
評価 ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	障害のある児童や配慮を必要とする児童の状況や発達に合わせて継続的な指導ができなくなる。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	指導回数等が減ると、適切な対応ができなくなるため。

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

専門知識を有する者が保育園を巡回し、アドバイスや助言をすることで障害児保育に対する職員の不安が解消され、障害児保育へのスキルアップが図られている。 また、町立保育園で実施している研修では、保育士による事例検討やグループディスカッション等を行い有意義な研修が実施され保育に活かすことができている。 問題点としては、対象児の増加により、観察の時間、記録の時間等が十分にとれない傾向にある。
--

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	平成29年度から平成31年4月までに町内に11園開園した企業主導型保育施設においても、町内の子どもたちが入所していることから、臨床心理士の巡回指導を開始し、さらに町全体で保育の質を向上していくことができる。